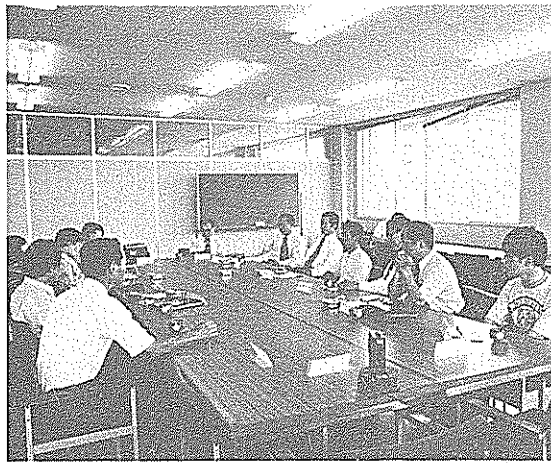


のびのびと育つ子供

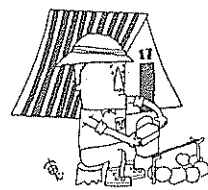


この座談会には、第一戦で活躍されている方々のほかに、多くの広報委員の参加があり楽しい座談会になりました。しかし、6名の参加を予定していた子供たちのうちの5名が試験のために参加できなかったことは残念でなりません。

たちに？

遊びを通して身に

つけていく社会のルール

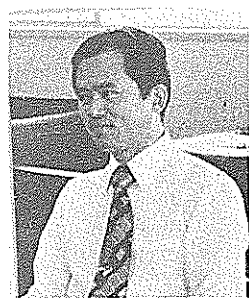


「今の子供たちは遊ぶことをしなくなつた。家庭、学校、塾、と一日の大半を費している。」
子供たちにとって、遊ぶということがいかに大切かを、子供の育成に力を入れ、第一戦で活躍しておられる方々に「のびのびと育つ子供たちに」という願いをこめて話していただきました。

態でした。

▼子供会では、七月にはつり大会、野市の青少年センターで研修会、八月には男子はソフトボール、女子はフットベースボールをします。これもかなり長く続けられています。二月になると学校訪問があります。

▼だいたい子供会が遊びが中心です。遊びというと、我々大人の世界では勤労の反対語、墮落といった感覚があると思うのです。昔から「誰々は遊び人だ」(笑)というように、あまりいい意味で使われていないようです。これと同じ感



覚で子供の遊びを見るところに大人の間違いがある訳です。
★子供の遊びは、大人の仕事と同じなのです。

▼その通りです。子供から遊びを取りあげたら何が残るかという、何も残りません。そのあたりの感覚の違いというものをできるだけ勉強して、正しい遊びというものを子供と一緒に接触して見直していく。これが一番大きな苦勞です。

▼子供会というのは、例えばソフトボールなり、遊びを通して協調性、社会性、決められたルールを守らなければならないということなどを理屈抜きで身につけていくところですね。
★子供会というと、遊ぶということですが、なかにはガリガリ勉強屋がいて、子供会には行きたくないというような人が、ひよっとしていませんか。
▼やっぱりいます。私立へ進学を希望する家庭の多い地区はそういった悩みがつきまとうのです。しかも低学年の時には非常に理解の

ある家庭であるのに、五、六年と上級生になった時点で「うちは遠慮させてほしい」。極端な場合は、「勉強しなくてはならない時期に遊ぶ」というグループは迷惑である」ということもありま。

が学ぶことと同じくらい大切なんだということを示しています。▼しかも、遊びというものは子供の時に体験しなかったら、大人になつてからは再びとり返すことはできません。ところが勉強というものは大人になつてもある程度はとり返せます。その子の人生にとって大きなマイナスになつていくと思ひます。

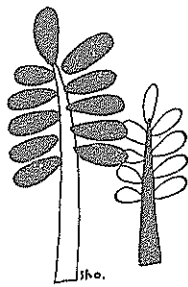


いいのですが、実際は子供会に行くよりも塾に行つたほうがより教育的であると考えている親が多いですね。

▼子供とはいへ、学校・家庭・社会が連立していかなければなりません。今の親は学校と塾しか考えない。子供なりに先輩から教え

遊び場に木を

多く植えて



も取つたように喜んで記憶があります。ところが、最近の子供た

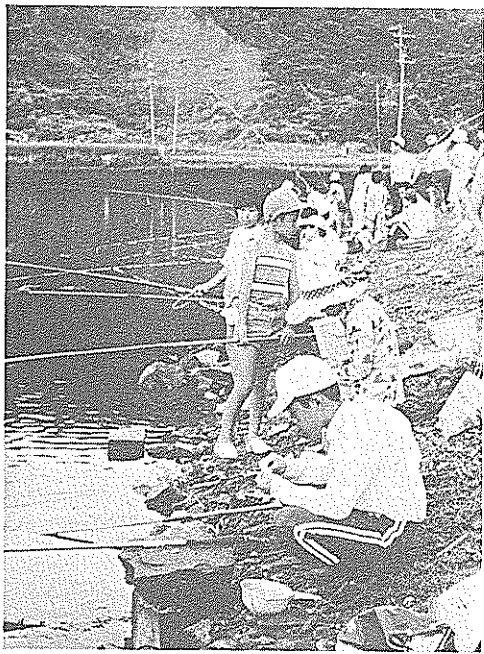


ちは、つかまえた喜びとかきれいだとかいった気持ち全然ない。開口一番「なんぼに売れる」と言う。木へ登って「むく」を取って食べる。桑の実がなれば口のふちをまっ黒にして食べる。「おんしやあ、また桑の実を食いよつたらうが」と、よく見つけられたもので。今の子供はなかなか合理的にやっていますよ。

▼何日もかかって、木の上に矢倉を組んだりもした。

▼後免の道神山と吾岡山に陣地を作って戦争ごっこをしました。年齢によって刀の長さが決っていました。

▼そのようにして、私たちの子供の時は遊びを作り出したのですが今は教えられることを待っています。



▼模型飛行機にしても、今はセツトになったものが売られている。私たちが一つ一つナイフで作っていたものですよ。セツトのものは飛ばなければ、また別のを買わなければいけません。そんな安易な考えがある。

▼自然を相手に、作りだして遊ぶということはあきがないですね。▼その自然相手の遊びが全くなくなつたと言えますね。水遊びにしてもプールがある。川は今のようになく、不潔で泳ぐことができません。

▼遊びの場所がなくなって、子供たちにとって今どうして遊んだらよいのかわからないのが現実のようです。遊園地にブランコやすべり台などないほうが、遊ぶにはかえっていいのです。木を多く植えてもらいたいです。

▼遊びの意欲といったものも失われてきています。外で遊ぶこともなく、家でゴロゴロしている。

▼それらの点で遊び方が違ってきていますね。

▼それから学校同志のケンカも減りました。日章のものは、三島と大蔵というふうなところが、今の子供はクラスの友人とは遊ぶが他に

矛盾を感じる

社会的な背景

★よく悪いことをして、しかられたという記憶もあるでしょう。

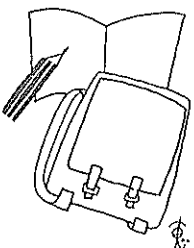
▼私の場合は、よくスリカ盗りを行いました。

▼私の子供の頃は、「黄色い兎を取りに行こう」と言っていて、これはビワのことですが、見つかったら頭にゲンコをうめられたり、お尻をたたかれたりもした。それでも警察に言ったりはしなかった。せいぜい学校止まりで、許してくれましたよ。

▼ところが、今は社会的背景というものも考えなければいけません。



の地域の子供たちとは遊ぶことは少ない。いわゆる遊ぶ世界が狭くなっているようです。



▼そうですね。今、そういうことをしたと仮定したら、はたしてそんな処置ですみますか。親は呼びつけられ、新聞は書きたてるかも知れません。当然、補習センターは来るだろうし。(笑)

▼ところが、親は口ではもっとワザンパクをせよと言いますよ。そんなところに矛盾をひしひしと感じますね。やはり、社会的な背景も考えなければなりませんね。

▼私は、こんな悪いこともしました。川のふちで昔はよく料理をした

ていましたが、その料理へ塩をほりこんだり、井戸へ馬糞を入れたりして、「殺すぞ」と包丁を持って追いかけられたりしました。(笑)しかし、昔はそのまま遊びとして受け入れられました。

★子供高知新聞にも、有名人のワザンパク話が出ていますね。

▼子供だから悪いことをしますよ。それによって、勇気とか決断力とかいうものを身につけるのではないのでしょうか。

▼そんな悪いことをしても、昔は善悪がちゃんとわかっていききました。今の子供にはそれがありません。集団でスローパーで万引をしても、ちよつとも悪いとは思ってないみたいだ。

▼私は、遊ぶことと勉強していくことは、人間を造っていく上で半々だと思えますよ。遊びのなかには創作したり、創造したりすること、社会のルールづくりや友人づくりというものがあります。遊んでいくうちに覚えていくのです。それができない人は、いくら秀才でもその人はいへんさみしい人間と言えますね。

▼最近では過保護になりすぎていますよ。やはり大切なことは、勉強する時は集中的にやり、遊ぶ時はこじやんとやるということが大切ですね。

先生に自信があれば...



★遊びをするにしても、昔は子供たちはもっと時間があつたように思えるのですが...

▼確かにそうですね。今は塾というものがあつて、宿題がある。おまけにテレビが家庭に普及してしまつた。この塾・テレビ・宿題というものが、「のびのび...」の癖になつていきます。

▼どんな時にも問題になるのがこれですね。

▼家庭の日だけはテレビを見るのをやめ、話し合いの場にしようという事で塾も休みにしてくれようというお願いに行きました。大半の塾は休みにしてくれましたがね。ところが、了解しておきながら休まなかつた一軒の塾では休んだ子

供を立てらせ、子供が塾と親との間で板ばさみになつたということもありましたよ。

▼子供の側からしても、子供の会の行事は塾の休みの時にしてくれと言つて子供もいる。

▼また、子供たちの心の中に、塾に行かなければ人より遅れる、仲間に入れない、という気持ちがあらはれないでしようか。

▼塾それ自体は、勉強してわからないところを補足するというものが理想だと思います。

▼学校の先生に、「私の授業をうけたら塾へは行くよばん」という自信ある気持ちで教えてくれれば、誰れも塾へは行かないのに。▼現にそういう先生もいます。自信をもつたきびしい先生を望みます。ただ授業をして一日が終るといふ気持ちではなく、もつときびしくやってもらいたいと思います。

▼中学生・高校生になると遊びはできなくなり、ほとんど塾ばかりになります。

▼家庭・学校・塾・家庭というふう



うな三角形のなかに、子供たちはいることになりませぬ。十時頃塾から帰り、宿題をすませると十二時になり、遊ぶ暇などないのが現状ですね。

▼それが長い子供の人生にどのようになつてくるか。

▼このような社会のしくみを直していけない限り、塾なんかへ行かして親バカだ、などと批判ばかりはできませんね。

▼学校の教課の内容がむつかしくなり、塾へ行かなければ追いつかない。しかし、戦前の学力よりは低下しているともいえます。学校教育のあり方も問題ですね。

▼また、塾にたのんでおけばよいといった親の無責任さにも問題がありますね。

▼家庭の延長で、子供をあずかつて人間を育てているんだという考えのものなら、いちがいに塾が悪いとは言えません。単なる知識の切り売りというのはいけませんね。

▼他人まかせではよくないといふ

お話し下さった方々

- ▼笠原清一 (下末松)
- ▼公文 護 (後免)
- ▼島崎秋水 (大埔)
- ▼中沢信喜 (前浜)
- ▼中屋卓也 (後免)
- ▼溝淵原己 (少年補導センター所長)
- ▼浜田善喜 (少年補導センター補導教員)
- ▼広報委員

